

2010年11月12日

東京外国為替市場委員会 第136回会合 議事録

開催日時 2010年10月20日 13:00～14:30
場 所 日本銀行本店 新館9階中会議室
議 長 星野 昭
副 議 長 中野 北斗
副 議 長 梨本 忠彦
書 記 竹内 淳
出席委員 19名

I. 委員の任期満了・再任について

星野議長より、北倉委員と宗川委員の任期（2年）が満了することが報告されました。両氏から、委員に再び立候補する意思が示され、全会一致で了承されました。

II. 準委員の交代について

星野議長より、渡邊準委員が退任し、古賀氏が新任となる旨が報告されました。

III. 小委員会報告

1. 運営小委員会

井上小委員長より、今後の本委員会の活性化のために、外部講師を招いた討議などの機会を設定してはどうかとの提案があったことや、東京市場と他市場の比較分析について、日本銀行と協力のもと行ってはどうかとの提案があったことが報告されました。

2. BCP小委員会

星野小委員長より、11月17日のBCP訓練においては、共通の被災シナリオ（首都直下型地震）のもと、各社が自社の被災シナリオを事前に検討したうえで臨むよう要請がありました。また、葛原準委員より、訓練本番に向けて、目下シナリオや手順の調整を行っていることが報告されました。

3. NDF慣行整備小委員会

広田小委員長より、対円でのNDF取引におけるFixingの算出方法について検討を行っ

た旨が報告されました。算出に用いるドル円レートの時点を①各通貨の **Fixing** に合わせる場合には、クロス円レートをロイターで公表することにより市場参加者に使いやすくできるとの議論があったことや、②東京時間の一時点を決定して算出する場合には、現在の仲値とは異なる例えば 15 時などの時点を新たに設定するといった提案がされたことが報告されました。また、こうした慣行の導入にあたっては、インターバンクの慣行整備や顧客に納得感のある形での時点の決定の必要性があることが指摘されました。

4. E-Commerce 小委員会

高木小委員長より、API 取引（システム接続による自動取引）の増加に関する現状理解と議論が行われたほか、金融先物取引業協会で定めた FX 取引用語と東京外為市場委員会のオレンジブックとの用語統一の必要性について検討されたことが報告されました。

5. 教育小委員会

河野小委員長より、フォレックスセミナーの活性化を企図して、セミナー講師の選定を目下調整していることが、報告されました。

6. EBS 建値の桁数変更に伴う影響について

大木委員より、EBS における建値の桁数を今後増加させる予定であり、主要通貨ペア以外では、既に導入してその影響分析を行っていることが報告されました。各委員からは、電子取引に対する優位性が高まる中、その他の顧客ニーズに合っているかについて、別途検討する必要があることや、価格のボラティリティなど市場への影響についても、情報収集が必要であることが指摘されました。

以 上

(別紙)

東京外国為替市場委員会委員名簿 (10月20日現在)

<委員>

議長	○星野 昭	(三菱東京 UFJ 銀行)
副議長・市場調査小委員長	中野 北斗	(みずほコーポレート銀行)
副議長	○梨本 忠彦	(パークレイズ銀行)
書記	○竹内 淳	(日本銀行)
運営小委員長	○井上 英明	(三菱 UFJ 信託銀行)
広報小委員長	○大木 一寛	(EBS ディーリング・リソース・ジャパン)
教育小委員長	○河野 文彦	(野村証券)
法律問題小委員長	今西 晋嗣	(住友信託銀行)
Code of Conduct 小委員長	○好川 弘一	(BNP パリバ銀行)
決済小委員長	○小松 淳	(みずほ銀行)
E コマース小委員長	○高木 晴久	(三井住友銀行)
	○北倉 克憲	(中央三井信託銀行)
	○小田川 正知	(ゴールドマン・サックス証券)
	○宗川 雄視	(ロイター・ジャパン)
	○石川 昌信	(トウキョウ・フレックス上田ハーロー)
	大西 知生	(ドイツ証券)
	○広田 泰司	(JP モルガン・チェース銀行)

<準委員>

○野口 嘉彦	(マネー・ブローカーズ・アソシエーション)
○山本 嘉樹	(みずほコーポレート銀行)
○葛原 圭	(三菱東京 UFJ 銀行)
○渡邊 明彦	(日本銀行)
○古賀 麻衣子	(日本銀行)

<オブザーバー>

河西 修	(財務省)
------	-------

(注) 敬称略 (順不同)。○は今回出席。